

脱炭素行動宣言の報告書について
(2025年9月30日時点)

※○エコ会議理事 ●エコ会議会員

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
1	あおみ建設株式会社横浜支店 川崎営業所		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、あおみ建設社有事を「2030年」までに※電動車100%かつEV車30%以上の導入率を目標とする。 ※電動車:EV車、HV車、PHV車、FCV車の4種	【令和6年度】 全社有車 35台 HV車28台 →電動車導入率80.0% (EV車0%)
2	特定非営利活動法人アクト川崎	●	NPO法人	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに川崎市が「脱炭素して豊かな暮らしを実現する社会」になるよう努力して参ります。そのために、川崎市民・事業者とともに「脱炭素した豊かな暮らし」を描き、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。特に、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組みます。	当法人が川崎市から指定されている「川崎市地球温暖化防止活動推進センター」事業と「川崎市地域環境リーダー育成講座」等の事業を行い、川崎市民及び事業者に対して脱炭素社会実現のための働きかけを行なった。川崎市地球温暖化防止活動推進センター事業では、「脱炭素に向けた学習支援」「脱炭素に向けた普及啓発」「おさがりボックス(不要になった子ども衣類の交換BOX)」や文具やエコBAGの交換BOXの設置」「中小企業脱炭素経営支援」を行なった。川崎市地域環境リーダー育成講座は6回の講座を実施し、環境リーダーを育成した。また、1月23日(木)には「第2回川崎臨海部フォーラム」を川崎市産業振興財団と共催し、「気候危機と脱炭素産業都市の未来／川崎市臨海部から進める地球温暖化対策の今」をテーマに江守正多氏を基調講演とパネルディスカッションを実施した。
3	麻生区クールアース推進委員会	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「麻生区クールアース推進委員会は、地球温暖化の現状を多くの市民に知ってもらい、解決に向けて共に行動する人々を増やすため、区役所と協働して自然エネルギーや省エネルギーなどの普及啓発活動を進めて」 いきます。	2024年度も、麻生区役所地域振興課と協働し、麻生区内を中心に自然エネルギーの普及啓発活動に取り組みました。 1.イベント事業 ①2024年8月4日:夏休み環境イベント「ソーラークッカーを作ろう!」、61人参加 ②2024年10月13日:第42回あさお区民まつりに出展、約300人にアピール ③2024年11月9日:あさお自然エネルギー学校「映画を見て、気候危機について一緒に考えよう!」ドキュメンタリー映画「気候戦士〜クライメイト・ウォーリアーズ〜」鑑賞、当会委員によるショート講義、参加者による意見交換、45人参加 ④2025年2月16日:麻生区役所太陽光発電設備設置22周年記念イベント「気候危機に挑む〜日本はどう取り組むべきか〜」講演:伊与田昌慶氏、参加者感想共有、参加者のアクション宣言、57人参加 ⑤2025年3月2日:2025里山フォーラムin麻生に出展 ⑥2025年3月20日:おひさまと遊ぼう「第11回あさお子育てフェスタ」に出展、約100人にアピール 2.出前講座 ①2024年10月12日:寺子屋くりぎだい「SDGsを学ぼう! 風力発電だよ〜」、26人参加 ②2024年10月19日:寺子屋あさお「SDGsを学ぼう! ペットボトルでソーラーエコライトを作る」、35人参加 3.麻生区役所屋上太陽光発電設備見学会への対応 イベント後の見学会開催で、年間約55人に対応した。 4.情報提供事業 委員会のニュースレターとして「おひさまだより50号」(記念号として1200部発行)、「おひさまだより51号」(700部発行)、区内関連施設に配架し、麻生区ホームページにも掲載した。
4	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「2030年」までに、GHG排出量30%以上削減(対2013年度)を目指し計画を具体化していきます。	下記の施策を通して、2050年カーボンニュートラルに向けたGHG排出量削減の取り組みを行っています。 ・水素製造用アルカリ水電解試験設備稼働(2024年5月竣工) ・グリーン水素製造用水電解システムの供給体制拡大に向けた取り組み (電解セル、電解用膜の生産)に対して、経済産業省GXサプライチェーン構築支援事業の採択が決定(2024年12月) ・川崎カーボンニュートラルコンビナート及び川崎港カーボンニュートラルポート形成推進協議会への参画を継続し、各種分科会を通して水素活用や地域内でのエネルギー最速運用について模索中 ・合成ゴム、モノマー製造部門、動力部門を中心としたエネルギー効率化検討実施 ・川崎製造所本館への太陽光パネル+急速充電設備設置工事完了 (2025年度稼働予定)
5	NPO法人アジア起業家村推進機構と会員 (DELE株式会社) の協働	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「世の中の情報機器の廃棄物ゼロを目指」していきます。	確認中
6	味の素株式会社川崎事業所	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「温室効果ガスのNet Zeroを達成」していきます。	・2030年度に向けて、省エネルギー活動によるGHG排出量15%削減(基準2018年度80,812トン、目標値2030年度68,690トン(▲12,122トン))の削減目標・計画および実行スケジュールを策定済みである。(GHG排出量実績:2018年度80,812トン、2022年度74,168トン(▲8%)、2023年度73,485トン(▲9%)、2024年度77,140トン(▲5%)) ・省エネルギー活動の取り組みの1つとして、2024年度は点検結果に基づく不良の蒸気ドレントラップなどの交換・補修を実施した。蒸気漏洩の削減量として、年間1,794トン(GHG排出量換算約270トン)に相当する。一方で、2024年度は特に研究開発棟の夏場および冬場の空調負荷が高まり、2023年度と比較してGHG排出量が増加する実績となった。 ・川崎カーボンニュートラルコンビナート／川崎港カーボンニュートラルポート形成推進協議会(2022年度3回、2023年度2回、2024年度2回)および京浜臨海部水素ネットワーク協議会(2022年度2回、2023年度1回、2024年度1回)に参画し、川崎市臨海部および関係する企業・団体と水素の利活用をはじめとする情報連携を進めている。合わせて、エネルギー地域最適化部会および炭素循環部会に参画している。
7	EM普及活動研究会		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに「①EMIによる生ごみリサイクルの普及活動を過去20年間継続してきました。これからも更なる20年を目指し、活動してゆきます。②市内小中学校における、環境授業の派遣授業の継続。③市内の農家さんの依頼による、竹や木材・収穫残渣を無煙炭火器によるEM整流炭づくりの支援活動を行います。」	①住吉会場(住吉こども文化センター学習室にて、奇数月・定期開催講習会(全6回)を通して年間180kgのEMボカシ(生ごみ発酵材)を作成。生ごみリサイクルに取り組んでいるメンバーに配布、生ごみ3、4トン削減) ②宮崎町会場にて、偶数月・定期開催講習会(全6回)を通して年間270kgのEMボカシ(生ごみ発酵材)を作成。生ごみリサイクルに取り組んでいるメンバーに配布、生ごみ3、1トン削減。 ③市内の3農家さんよりの依頼があり、EM整流炭作りを行いました。
8	有限会社シシザキ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO2排出量を20%削減」していきます。	確認中
9	株式会社スイズ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、以下を取組むことを宣言します。 ①太陽光発電を10MW以上施工し、年間3000t-CO2の脱炭素に寄与します。 ②オフグリットトレーラーハウス及びその他オフグリット施設を100箇所以上設置し、年間60t-CO2の脱炭素に寄与します。 ③川崎市主催等の脱炭素事業に毎年積極的に参加をし、脱炭素取組のPR、周知に注力します。 ※CO2削減の条件として、太陽光発電1kWhによるCO2削減量を0.312kg-CO2としています。	確認中
10	株式会社井の雅組		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO2排出量を1.5%削減します。」	事業所における電力の使用量、ガソリン、軽油の使用における燃費向上の取り組みによる使用量の削減努力により、 2021/6/1〜2022/5/31の間183、967kg-CO2 2022/6/1〜2023/5/31の間155、459kg-CO2 2023/6/1〜2024/5/31の間143、964kg-CO2 (エコアクション21の取り組みに基づく)
11	医療法人社団 前田記念会 前田記念武蔵小杉クリニック		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「医療機器の更新には、医療安全を担保し消費エネルギーの削減を実現します。」	2023年川崎市のスマートライフスタイル大賞に参加。 旧対策 1. 透析用水作成時の温度加温廃液熱回収システムを導入して電気使用量を減少 透析用水作成装置機器単体27%削減 2. クリニック使用箇所の照明をLEDへ変更(調光タイプも一部導入) 照明機器変更による単体で72%削減 3. 室内温度・湿度を測定して適正なエアコン設定温度にする。 4. OA機器の省エネものの活用 5. 職員全体への使用エネルギー等の実績公表 2024年 2023年の省エネ活動を継続施行 2025年8月報告 2024年6月〜ビル全体の照明がLEDに変更。 施設使用の拡大(1,000㎡ → 1,200㎡) 2024年9月〜透析精製装置機器1台更新 透析廃液熱回収システム機器の更新 透析水精製機器・透析廃液熱回収システム機器の更新前後の実績 ※透析用水を精製能力再吸収率20%向上その時の昇温にかかる電気使用量が 2023年10月〜2024年7月(10か月間) 69,041kWh 2024年10月〜2025年7月(10か月間) 41,188kWh およそ40%の削減 比較期間の条件変動 透析機器台数 15台増 透析件数1,228件増 施設使用 200㎡ 水道使用量も同期間で945㎡も減少 2023年10月〜2024年7月(10か月間) 7,951㎡ 2024年10月〜2025年7月(10か月間) 7,006㎡ およそ12%の削減 ※再吸収率が20%向上したが削減率が少なかったのは、透析件数が7%近く増えたことが影響した。
12	ウエイズトヨタ神奈川株式会社 溝ノ口店		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに太陽光発電システムや蓄電池の導入など「カーボンニュートラル店舗の設置」を推進していきます。	弊社のレクサス武蔵小杉(中原区)に150Kwの急速充電器を導入。 更に、本年度は他のレクサス店(宮前区)にも同様の急速充電器を導入予定であり、脱炭素社会の実現に向けて自動車販売店の役割として充電インフラの拡充に向けた取り組みを着実に推進中。
13	ウォータースタンド株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「使い捨てプラスチックボトルを30億本削減していきます。」	確認中
14	有限会社 宇佐美		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2020年を基準とした燃料使用による二酸化炭素排出量を25%削減」していきます。	2024年時点で13%の削減が出来ました。 来年に降もさらに削減できるよう取り組んでまいります。
15	株式会社エイワ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに ○ 太陽光設備の設置を導入します。 ○ 営業車を5台次世代自動車にしていきます。 ○ 照明を100%LED化します。 ○ 事務所外壁改修時に省エネ効果のある遮熱塗装を実施します。 ○ 2023 住宅省エネ支援事業者登録をして客先にキャンペーンを周知します。	※ 長時間労働を抑制するためにノー残業デーを週2日設けエアコン・電灯等の使用削減を実施した。 ※ 真夏の現場作業時に省エネミスト扇風機を使用したほか水まきにて地熱を下げる努力をした。 ※ 取引先・従業員にマイバックを配布してレジ袋削減の取り組みを行った。
16	エコガーデンはるひ野	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、家庭から出る生ごみを堆肥化して花壇に利用することで「ごみの削減」に取り組んでいます。さらに取り組む世帯が増えるよう、ダンボールコンポスト講習会や花を題材にした講座を行い、参加者に呼びかけます。 また、今後は生ごみ堆肥だけではなく、植え替え時に抜いた花苗を落ち葉などと一緒に木枠コンポストで腐葉土を作る方向での取り組みを進めています。	家庭の生ごみから作った堆肥の花壇への提供が20件、家庭での使用が7件あり、あわせて1.35トンの生ごみ排出を削減しました。また、花壇付近の資材置き場に木製コンポストを設置し、植え替え時に抜いた花苗や雑草を堆肥化することを実現、45リットルごみ袋10袋ほどのごみを削減したことになります。さらに、町内の講習会でダンボールコンポストを紹介し普及に努めました。
17	株式会社エコプロ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2023年」までに「弊社内ごみ減量化90%達成」していきます。	アイドリングストップの実施 低公害車両の導入 照明器具のLED化

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書																									
18	株式会社エス・イー・アイ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030」までに、川崎市のCO2排出量半減に貢献していきます。 その実現に向けて、以下の方々へ地球温暖化や気候危機を取り巻く課題の共有や、必要なアクションについて考えていただける「CO2排出量半減をシミュレーション」できるカードゲーム【脱炭素まちづくりカレッジ】を活用したワークショップ形式の講座を以下の方々へ提供いたします。 ●「気候危機対策」や「脱炭素推進」の取り組みを地域で広げていきたい環境団体の方 ●SDGsだけでなく、脱炭素の考え方を活用して地方創生に取り組みたい都市計画・まちづくり関連企業の方 ●自社の脱炭素の取り組みを推進するための社内研修や新規事業開発プログラムを運営したい民間企業の方 ●授業や放課後教室などで子どもたちに環境教育を実施したい「教育セクター」の方 ●自治体・企業等主催の「脱炭素」「気候危機」関連の研修・講演会等を受注したい人材育成業界の方 また、親子で体験するワークショップでは、気候危機やCO2排出問題ということにあまり関心が高かった人も、入りこみやすいゲームにいつのまにか熱中し、楽しみながら脱炭素の本質を理解することができます。CO2排出量半減をシミュレーションにより「自分ごと」として考えていただける機会になります。 【脱炭素まちづくりカレッジ】は3つのプログラムで構成しています。 小学校・中学校、あるいは社員研修では【PLAY1】と他2つのプログラムの一部を活用した講座がほとんどです。 企業やNPO法人などで脱炭素プロジェクトを企画される方には、しっかりと3つのプログラムを体験されることをお奨めします。以下に3つのプログラムの概要をご案内致します。 【PLAY1】ゲーム体験で2030年までのCO2排出量半減をシミュレーションできるカードゲーム 「気候危機」や「脱炭素」のことが頭では理解ができてても、具体的にどんな変化が起きるのか、脱炭素化を推進するためには具体的に何をやるべきなのかは、まだまだ分かりづらいのが現状です。2030年半減に向けてまちづくりの推進を疑似体験するロールプレイングゲーム型の未来体験プログラムです。 ゲームプログラム3つの特徴 特徴1 具体的にやるべきことを学べる「プロジェクトカード」 特徴2 リアルタイムに削減効果が分かる「地域排出量シミュレーター」 特徴3 気候危機の上昇具体的な変化を体験できる「未来ニュース映像」 【BASIC】気候危機と脱炭素の知識習得 脱炭素まちづくりに必要な地球温暖化・気候危機、緩和(削減)・適応に必要な市民生活やまちづくりの対策に関する知識を講義と知識取得を検定するプログラムです。 プログラムで学べる知識(一例) ・気候上昇の実態 ・気候変動・温暖化のメカニズム ・気候変動に伴う気候の変化 ・気候変動に伴う自然環境の変化 ・気候変動に伴う6つの未来危機シナリオ ・日本および地域の温室効果ガス排出実態 ・温室効果ガス削減のための具体アクション 【DESIGN】排出量を見える化し、半減に向けた具体的なアクションを構想 脱炭素まちづくりの実践のために自分および自分達が暮らす地域のカーボンフットプリント(排出量)を見える化し、その削減プランを企画・具体化します。 Step 1: MY CO2の見える化 あなた自身の日々の暮らしからどのくらいの二酸化炭素が排出されているかを確かめてみましょう。衣・食・住・移などの日々の暮らしに関する約300問程度の設問にウェブシステム上で答えていくことで、単純な排出量だけではなく、全国平均との差分も表示されます。まずは自分自身の排出量を見つめ直し、具体的に何から始めるべきかを考えてみましょう。 Step 2: 地域CO2の見える化 個人の排出量の次に、あなたが住む地域の排出量を確認していきます。ウェブデータベースを活用することで、あなたが住む地域の排出量がどの程度なのかを、全国平均や他地域の排出量と比較しながら、分類別でも確認することができます。地域の排出量を把握し、地域の	確認中																									
19	N-システム株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2030年」までに ・仕事柄省エネ工事を行って居り、空調設備、衛生設備、電気設備の省エネを提案し、インバーターによる電力の省エネや風量省エネを提案し、仕事に結びつけていく。 ・事務所内の電気(電力)使用量を減らすため不要な電気を切り削減する。	・現場等で空調の省エネ化に伴うインバーター化工事を実現しています。 今後も電力・水の省エネを提案をし仕事に結びつけていきます。 ・事務所内の照明をLED化し、無駄な電気は付けず、ガス・水道も無駄に使わない様節水・節電対応とします。																									
20	NTT東日本川崎支店	●	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて ・2030年までに一般車両のEV化100%を目ざします	2024年度の取組結果は以下の通りです ・「2030年」までに一般車両のEV化100%を目ざします →2024年度現在45%																									
21	荏原実業株式会社		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「 企業活動における環境負荷改善を実施し、温室効果ガス排出量を削減 」 していきます。	※別途画像データあり※ 2022年を基準年として2030年までにScope1・2排出量を45%削減することを目標にしており、2022年度比で2023年は7.6%、2024年は10.3%と削減を進めております。 <table><tr><th>項目</th><th>単位</th><th>2022年</th><th>2023年</th><th>2024年</th></tr><tr><td>CO₂排出量: Scope 1および2合計</td><td>t-CO₂</td><td>1,124</td><td>1,044</td><td>1,019</td></tr><tr><td>実績</td><td>%</td><td>—</td><td>7.6</td><td>10.3</td></tr><tr><td>グリーン購入率</td><td>%</td><td>65.5</td><td>66.3</td><td>69.0</td></tr><tr><td>実績</td><td>%</td><td>—</td><td>1.2</td><td>3.5</td></tr></table> <実施事項> ※当社ホームページにて公表 1) ハイブリット車への切替促進: 神奈川支社 導入率100% (4台／4台) 2) 電子申請及びWEB会議導入済み	項目	単位	2022年	2023年	2024年	CO ₂ 排出量: Scope 1および2合計	t-CO ₂	1,124	1,044	1,019	実績	%	—	7.6	10.3	グリーン購入率	%	65.5	66.3	69.0	実績	%	—	1.2	3.5
項目	単位	2022年	2023年	2024年																										
CO ₂ 排出量: Scope 1および2合計	t-CO ₂	1,124	1,044	1,019																										
実績	%	—	7.6	10.3																										
グリーン購入率	%	65.5	66.3	69.0																										
実績	%	—	1.2	3.5																										
22	株式会社大本組 横浜支店		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030～2040年度」の出来るだけ早い段階までに「施工における二酸化炭素排出量の2013年度比40%削減を目指して取組みを推進 」していきます。	確認中																									
23	岡村建興株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2027年度」までに ・SRコンクリートの製造により、2022年度比20%以上のCO2削減及び産業廃棄物の削減 ・社内照明のLED化をしていきます。	SRコンクリート製品を11㎡製造販売し、産業廃棄物を3,417Kg、CO ₂ 2,928KGを削減した。また2024年4月に本社事業所の照明を全てLED化した。																									
24	花王株式会社 川崎工場	●	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までにカーボンゼロ、「2050年」までにカーボンネガティブを達成するため、脱炭素目標を策定し、SBTi(Science Based Targets イニシアチブ)から2019年認証取得した「2.0℃目標」に加えて、「BusinessAmbition for 1.5℃」への署名により、SBT1.5℃を目指します。 また、国際的イニシアチブ(RE100)への参加により、2025年までにすべての購入電力を再生可能エネルギーにしています。	2040年カーボンゼロ達成に向けて、脱炭素のSBTi1.5℃目標は2017年度比GHG排出量を55%削減に活動を進めている。2024年度は、コ・ジェネ設備の更新に伴う、エネルギーサービスプロバイダ(ESP)導入のため、既存設備を廃止した。これにより全ての電力は再生可能エネルギーの購入電力となり、都市ガス購入抑制による脱炭素化を図った。SBTi1.5℃実績は2017年度比67%を達成した。																									
25	鹿島環境設備株式会社		中小企業	2030年までに電動化自動車の導入30%を目指します	確認中																									
26	鹿島田商店会		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まずは取組期間を3年間と設定し、環境問題への対策として誰もが実践でき、今からでもできる行動の選択肢を提示しながら、脱炭素社会における暮らし方を発信・実践する。省エネが生み出す経済循環、防災・減災や生活の質の向上 など様々な地域の課題解決に繋げ、地域が丸となって環境変化に対応していくことが目標である。	令和6年8月には気軽にできるエコ活動として“打ち水”イベントを商店街エリアで実施し、さらに夏休みの児童を対象とし、ソーラーランタン工作教室を行った。10月にはフードドライブとサステナブルファッションショーを実施し、不要になった食品や廃材等が活用できることを地域にアピールした。12月～1月にかけてはsmart moveを取り入れたスタンプラリーを開催し、景品としてオリジナルエコグッズを配布。3月には野外コンサート会場にてフードドライブ、古本を活用したブックサイクルイベント「鹿島田おもひで図書館」を実施し、ゴミ削減に向けた啓発を行った。 結果、脱炭素社会実現に向けた暮らし方を提示し、周辺住民と新しいライフスタイルを共有することができた。																									
27	学校法人調布学園 田園調布学園大学		学校	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 ・大学生、教職員の意識啓発(教育、研修等)を行い、CO2排出削減のための一層の行動促進を目指します。 ・節電、節水、ごみ削減を行い、CO2の排出削減に貢献します。 ・環境関連の学内外のイベントや活動を企画、参加し、CO2の排出削減に貢献します。 ・校内の緑化(植樹)活動を推進し、CO2の排出削減に貢献します。	・人間福祉学部の授業(国際福祉論、共生社会論等)で、脱炭素社会の重要性についての講義を行い、学生への啓発へつなげました。 ・子ども未来学科の授業(子どもと環境、保育内容(環境)、子どもと自然、専門演習等)や大学院人間学研究科の授業(人間学概論V(自然と人間)、子ども環境学特論等)において、CO2削減につながる教育活動実践(川崎市内のどんぐりの種から苗の育成や植樹活動等)を行いました。(2024年度)																									
28	一般社団法人 神奈川県トラック協会	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「上部団体である公益社団法人全日本トラック協会と連携し、トラック運送業界全体のCO2 排出原単位を2005 年度比で31%削減することを目標(全日本トラック協会策定【トラック運送業界の環境ビジョン2030】より)	■ドライバー向けエコドライブ講習会 一般道を実際に走行し、省エネ・安全・燃料コスト削減等の効果が見込まれ、更には地球温暖化の要因といわれているCO2の削減効果も期待されるエコドライブを実車にて実施した。 ■エコドライブリーダー養成講座 社内のエコドライブ活動を推進する人材の育成を図るため、かねがねエコドライブ推進協議会と共催した。 ■日常点検講習 エコドライブに必要な日常行う車両の維持管理方法並びに環境に配慮した車両の使用方を習得するため開催した。 ■エコドライブ診断器(セーフティナビ)の貸出し エコドライブ診断器(セーフティナビ)を会員事業者に貸出し、広範的にエコドライブの意識を浸透させた。 ■グリーン経営認証制度促進助成事業 グリーン経営認証制度の普及拡大を図るため、新規認証取得事業者・更新事業者を対象に係る費用の一部を助成した。 ■車内ゴミのポイ捨て防止啓発の推進 運転者のモラルの向上並びにグリーン経営認証取得に係る評価項目の従業員に対する環境教育を推進するため、車内ゴミのポイ捨て防止に係るポスター・チラシを各種研修会等にて会員事業者に配布した。 ■キー抜きロープの普及促進 アイドリング・ストップを推進するため、会員事業者に配布するとともに、当協会の環境への取組を広範的にPRするため、啓発物として配布した。 ■アイドリング・ストップ支援機器等の助成 アイドリング・ストップの推進に有効な蓄熱マット・蓄冷クーラー等の普及拡大を図るため、会員事業者に対して導入費用の一部を助成した。 ■タイヤゲージの普及促進 燃料消費量及びCO2排出量の削減に繋がる車両の適正な整備を推進するため、タイヤの空気圧を測定するタイヤゲージをモニター形式により会員事業者に配布した																									
29	株木建設株式会社		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年度」までに2021年度から起算 ・ペーパーレス化を促進させ紙の年間購入量を50%削減 ・環境に配慮し、電気使用量を30%削減 ・年度毎のグリーン調達率95%以上の確保していきます。	確認中																									
30	株式会社社研空社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに ・空調機入れ替え提案時は高効率機器を提案 全件数のうち提案率80%以上を目標 ・社用車をハイブリット車に随時入れ替え 2030年までに全台次世代自動車にする ・現場管理者のIPAD使用率を100%にする ・PPP、PFIの官民パートナーシップを通じて地域の経済的なエネルギー利用を提案。 川崎市内小中学校空調機更新時には省エネにつながる運用方法を使用者に提案。 小学生・中学生にも省エネの意識を持ってもらえるよう教室内に省エネ運用方法を掲示 川崎市の地域プラットフォームメンバーとしてセミナー、勉強会に参加。地域全体の省エネに貢献する。	2024年度実施項目 ・空調機入れ替え提案 設計提案4件 高効率機器提案4件 100% ・社用車(移動車)10台中 ハイブリット車6台 ガソリン車4台 ・IPAD資料率: 事業部員45人中 28人使用 約62% 川崎市立小中学校空調設備更新整備等事業 構成員として経済的なエネルギー利用の提案を実施 今年度より空調機の更新工事を実施 運用方法や掲示については今年度施工実施校から随時提案予定 川崎市施設工芸会において『機械設備勉強会』を主催 テーマ「体育館空調の導入事例や様々な空調方式による省エネについて」実施済み																									
31	カミング・スーン合同会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「100%再生可能エネルギー化」していきます。	2023年は太陽光発電にて3500kWhほど発電し、事業に必要な電力の7割程度を賄っている状況です。 引き続き事業の省エネ化や、発電量の増加を目指して参ります。																									
32	かわさきかえるプロジェクト	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに「人と自然が共生するエコシティ川崎」を目指し、市民活動による地域資源循環と、再生可能エネルギーへの取り組みを広げ、環境まちづくりの取り組みを広げます。	確認中																									
33	かわさき環境教育学習プロジェクト		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まず、2030年までに「脱炭素社会に向けた場づくり」を行なっていくします。	①脱炭素かわさき市民会議(2021年実施)からの提案を推進するため、2030年に向けた行動計画を検討した「脱炭素かわさきを進める市民の会」の活動を支援した。 ②小中学校10校に対して、地球温暖化・気候変動分野の出前授業を実施した。																									
34	川崎港運協会		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「カーボンニュートラル化」を推進します。	川崎市150万本植樹の達成に向け、会員店社95社に理事会等の諸会議を通じ植樹のお願いを行った。また当協会事務所においては観葉植物を飾り、脱炭素化に向けた意識向上に努めている。																									
35	川崎工業振興倶楽部	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「会員企業にとって「有効で有意義な情報」を入手の都度、倶楽部のホームページに掲載し、全会員企業への情報提供による広報啓蒙活動を実施する。Ex「かわさきエコちゃんずメールマガジン」「スマートライフスタイル大賞受賞会員の紹介」等をしていきます。」	会議内容やメールマガジン内容といった、企業にとって有効な情報を全会員企業へのメール配信、メールマガジンはホームページへの掲載(会員ページ)、周知・運営委員会で取り扱うなど、各企業への脱炭素についての啓発し各企業の認識を深めた。25年度についても引き続き維持取組を行っている。																									
36	公益社団法人川崎港振興協会		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までの間 以下の項目を重点的に取り組んでまいります。 ・会議資料等のペーパーレス化及び会議のリモート化 ・廃棄物の減量化	確認中																									
37	川崎市工業団体連合会	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「会員企業全てが脱炭素行動宣言を行い、脱炭素行動を実施していくように」していきます。	当連合会の技術委員会の取組テーマを「工団連での脱炭素化の動きづくり」として、昨年度に続き川崎市の資料や中小企業基盤整備機構の資料の勉強会を行い、それを連合会の各企業へどう波及していくか意見交換・議論を行ってき																									
38	川崎市資源リサイクル協同組合		その他	2030年に向け、資源循環型社会の構築については、ISO14001等の環境マネジメントシステムに関する認証は取得していないが、今後継続的に環境面の活動を改善するための環境マネジメント体制の具体的な構築を目指すようにしたい。	・2030年に向け、低公害車・EV車等の導入を促進し、保有するすべてのフォークリフト車をEV車に切り換えに取り組んでいます。保有する55台のフォークリフトのうち4台については、EV車に変更済みで、1台については、早期にEV車に変更することとしています。 ・有害化学物質につきましては、資源化処理施設の粉塵測定を行い、作業環境の改善に取り組ましました。																									
39	一般社団法人 川崎市商店街連合会	○	団体	商店街の街路灯のLED化を促進します。 省電力型の防犯カメラの設置を促進します。 商店街において温室効果ガスを削減できるよう、会員間の情報共有を図って参ります。 再生可能エネルギーを導入しよう働きかけを行っています。	商店街の街路灯のLED化や省電力型の防犯カメラの設置の促進のため、支援制度などの情報を、会報、ホームページなどで広報しました。 商店街において温室効果ガスを削減できるよう、会員間の情報共有を踏りました。																									
40	川崎市新エネルギー振興協会	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに温室効果ガスを80%削減に向けて地域社会の方々へ広報活動及び啓蒙活動をする。	確認中																									

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
41	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて2030年までに「かわさき市民と「脱炭素した豊かな暮らし」のイメージを共有し、2030年には、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。そのために、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組み、川崎市のさまざまなシステムが「脱炭素が容易に行える社会制度」になるよう努力して参ります。」	●脱炭素に向けた学習支援 ・学校・こども文化センター・町内会等での環境学習(24年度実績 6,702名) ●脱炭素に向けた普及啓発 (当センター(CCかわさき交流コーナー)を活用した情報発信等) ・脱炭素に関連した展示や講座の開催、リソース促進を目的とした「おさがりボックス(不要になった子ども衣類の交換BOX)」や文具やエコBAGの交換BOX等の設置により、市民の環境問題の意識改革や行動変容を促した。 (主催イベントの開催) ・「第12回かわさき環境フォーラム(2024/12/8)」の開催(参加者 1,214名) ・「夏休み自由研究週間～子ども環境ワークショップ(2024/7/20～31)」の開催(参加者 334名) ・「春休みエコ体験教室(2025/3/29～30)」の開催(参加者 157名) (他イベントへの参画) ・脱炭素等をテーマにしたイベント「脱炭素アクションみぞのくち ～まるっとサステナフェスティバル～」等への積極的な参画。 ●脱炭素に向けた中小企業支援 ・「脱炭素経営 炭素の見える化」事業として、東京メータ㈱との連携により、世界初の空気圧エネルギー計測技術によって見逃しがちな空気圧の使用における空気エネルギーも実際に計測、無題を省き脱炭素につなげた。
42	川崎市で木育を広め隊		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、私たちは、次世代に持続可能で豊かな環境をつなぐため、0歳から大人までが楽しみながら参加することができ、脱炭素について学び考えることができる「木育おもちゃの広場」「木育紙芝居」「木育クイズ」等の機会を創り続けてまいります。イベントだけでなく、常設の「木育おもちゃの広場」が設置され、そこで継続的に啓発・教育・人材育成等の展開が可能になることで、より効果的に脱炭素社会の実現に貢献できると考えております。	「かわさきSDGsパートナーまつり」「春の大山街道ふるさと館まつり」「東高根森公園ペビー＆キッズウッドパーク」「全国都市緑化かわさきフェア」等のイベント出展等で、木のおもちゃ遊びイベント「木育おもちゃの広場」を開催し、小さなお子さん連れでも楽しむだけでなく体感的に脱炭素について学ぶことができる機会を創出いたしました。「木育紙芝居」や「木育クイズ」を加えることで、「樹って都会でも身近にあるんだ!」「樹って炭素を固定するんだ!」「樹ってすごいね!」と、より知的好奇心や身の回りの環境への愛着を感じる方が増えることに、少しでも貢献できるよう努力いたしました。
43	一般社団法人 川崎市電設工業会	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに「1、蓄電池を活用して、現場作業での排ガスゼロを達成する。 2、会員各社のEV化を促進する。会員各社の社用車のEV化の進捗・EV化率について、毎年調査。」をしていきます。	1については、蓄電池のほか再生可能エネルギーを電源として工具を使用する等、脱炭素化への取り組みが進んできている。 2については、令和5年度末には6.02%だったが、令和6年度末には8.77%となり、EV化率が上昇した。 今後引き続き再エネ利用を推進し、脱炭素化への進捗を図っていく。
44	かわさき市民共同おひさまプロジェクト	○	NPO法人	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「川崎市内に再生可能エネルギーを活用した施設を増やす活動をしします。住宅、福祉施設、地域の避難所などへの太陽光発電、農地での畜農型太陽光発電を増やすことを目標として、普及活動、提案・助言活動をしていきます。	・イベントに出展してリーフレット「日の当たる屋根は宝の山」を配布し、特に既築住宅への太陽光発電設置を提案した。(「脱炭素アクションみぞのくち広場」、「インターナショナルフェスティバル」に出展) ・介護事業所に「オンサイトPPAによる太陽光発電と蓄電池設置の提案」を行ったが、検討までには至らず。 ・1号機(太陽光発電)の発電量データ、2号機(太陽熱温水器)の集熱量データ収集し、各々の設置事業者への助言、相談活動を実施した。 ・プロジェクトリーダーNo.22を作成、太陽光発電利用の様々な事例を紹介した。会員や協力者に送付し、ホームページに掲載し情報発信を行った。 ・「脱炭素アクションみぞのくち推進会議」に参加して登録団体との情報交換を行った。 ・麻生市民館・図書館太陽光発電所を運営する川崎地域エネルギー株式会社と連携し、本設備に関する支援活動(発電所見学会、2年目点検、パネル清掃)を行った。
45	川崎市立平間小学校		学校	2030年までに地域や企業等と協力して炭素排出量を減らすために取り組みます。	確認中
46	川崎信用金庫	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、環境配慮型金融商品の提供や地域の事業者の脱炭素経営の支援を行っています。また、「2030年」までに、当金庫の二酸化炭素排出量を2013年度比で90%以上削減します。	確認中
47	かわさき生活クラブ生活協同組合		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「再生可能エネルギー主体の生活クラブでんきへのスイッチング推進、自家発電消費型の施設の拡大、自前および関連施設における省エネ型発電設備の導入促進、事業から出るCO2の排出量を2013年度比50%まで削減」していきます。	●脱原発・脱炭素をめざし、再生可能エネルギーの普及を推進する生活クラブでんきの加入者を増やすため、新規契約133件の目標を持って活動に取り組みました。9月にアンケート回収活動を実施し、約180件の回答を基に相談会を組み立て、組合員活動と事務局活動との連携で加入につなげました。また、組合員が主体的にエネルギー問題を自分ごとにとらえる機会として学習会やでんき生産者見学会等の開催を重ねて実施しました。結果、加入41件、目標達成率30.8%の実績となりました。 ●神奈川県産地場野菜セットの取組みでは、県内産の野菜が直接配送センターに届くことによりCO2削減につながることも伝えました。 ●10月～12月に「かながわ脱炭素アクション創出事業のCoCoポイント+キャンペーン」のアピールを実施し、リユースびん取組みや詰め替え用せっけん類の利用をすすめました。
48	株式会社川崎フロンターレ	○	中小企業	脱炭素に向けて社会の実現を、川崎フロンターレのホームゲームや地域活動を通して市民への周知活動を推進して参ります	■ 廃材アクリルパネル回収 キンコーズ・川崎駅前店と共同で、コロナ禍で飲食店や商店で利用したアクリルパネルやアクリルパーテーションを回収し、川崎フロンターレのホームゲーム内や市内でのイベントにて、ユニフォーム型に回収したアクリルパネルを切り抜き、好きなデザインにしてキーホルダーを作成するイベントを開催 回収量:115枚 / イベント参加者数(延べ):1500名程度 実施期間:2024年3月1日～ イベント告知:https://www.frontale.co.jp/info/2024/0325_18.html#ex-toc-uid1018 回収告知URL:https://www.frontale.co.jp/info/2024/0226_9.html ■ モバイルバッテリー回収 スポーツイベント初として、環境省と共にモバイルバッテリー回収およびリチウムイオン電池の廃棄の危険性に関する啓もう活動を実施 回収量:約350個 実施日:10/18 ■ 等々力緑地清掃活動 Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsuを中心に等々力緑地を選手と共に清掃活動を実施。 ファン・サポーターおよび選手やゲストを含めて、449名が参加。 参加者数:480名 実施日:8/25 ■ エコステーション ホームゲーム時にエコステーションを設置し、資源化できるプラごみの分類を3分類から8分類に変更
49	かわさきマンション協議会		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、マンションの外断熱化・太陽光発電と蓄電池による共用部分及び専有部分への電気供給・EV充電スタンドの普及	2024年2月25日開催 パークシティー溝の口集会室 16:00-16:50 勉強会 「10年前の太陽光発電設備設置と今後の展望について」 地球環境の未来のため、2050年カーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現に向けて、省エネ対策を進めていく必要があります。 太陽光発電・蓄電池の活用・防災対策・大規模修繕時屋上防水工事対策等 EV用充電インフラ補助金のチラシを配布(地域環境共創課作成) ＊勉強会に参加された管理組合役員を共創課担当者で紹介＆川崎市マンション名簿を提供 ＊トーカーンマンション宮前平管理組合に玄関ドア更新についての情報提供⇒更新実施 及び、サッシ交換のメリットと費用に関して情報提供する。⇒長期修繕計画書に更新時期と金額記載 ＊市ノ坪住宅玄関ドア更新についての情報提供と指導及び屋上への太陽光発電設置の提案
50	川崎未来エナジー株式会社	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、市域への再生可能エネルギーの普及・地産地消を推進するとともに、市民、事業者、金融機関等の多様なステークホルダーが参画できる地域エネルギープラットフォームの中核となります。	川崎市内の処理センター(ごみ焼却施設)から生み出される再生可能エネルギーなどの電気を、市立学校を中心とした市内201の公共施設や市役所通り公共街路灯、ヤマト運輸高津千年営業所へ供給を行い、市域の再生可能エネルギーの普及及び地産地消を推進した。
51	川崎臨港倉庫埠頭株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに省エネ及び二酸化炭素の排出量削減のため、2023年度から2030年度までに、当社倉庫の既存照明設備をLED照明に更新するほか、当社施設のカーボンニュートラル化を進めて行くことを目標とします。併せて、川崎港コンテナターミナルのカーボンニュートラル化を目指します	2024年度の取組結果 ・倉庫既存照明設備のうち、水銀灯12台、蛍光灯44台をLEDへの更新によって、CO2排出量の削減をおこないました。 ・川崎港コンテナターミナルでは、EV充電設備を2ヶ所設置し、ガソリン車からEV車への転換を促進して、CO2排出量の削減をおこないました。
52	川又電機工事株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「太陽光発電設備と蓄電池を導入し、電気使用量・CO2の削減を目指します ・事務所内の空調機を高効率機器に切り替え、電気使用量・CO2を削減します ・蓄電池等を利用し、工事現場でのCO2削減を目指します ・社有車のEV・PHEV化を進めます」	・2023年 太陽光発電設備と蓄電池を導入 ・2023年 事務所内の空調機を効率機器に更新 ・2023年 EV及びPHEVを各1台所有 ・2024年 太陽光発電設備の発電量9294.5kWhにより、社内電灯設備、EV、PHEV、現場への蓄電池等へ利用
53	独立行政法人環境再生保全機構	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「電気使用量による温室効果ガス総排出量を2013年比(基準年)で50%削減。」していきます。	2024年度環境配慮実行計画に基づく取組を着実に実施するとともに、取組状況について定期的に自己点検を行って職員への意識啓発を図った。特に同年度においては、執務室内の照明のLED化を進めることで、節電への取組を推進した。その結果、電気使用量による温室効果ガスの排出量を2013年度比で45.5%削減することができた。
54	企業組合 労協センター事業団		団体	BDFをバスや農機具等に使用するなど地球温暖化対策に取り組んでいます。	BDF(バイオディーゼル燃料)を、顧客や地域の方に広めている。 車両にBDFを使用し、軽油に比べ、クリーンな排ガスにしている。 デメリットもある為、社用車で試している。 ディーゼル車を増やし、BDFの使用率を上げる検討をしていく。
55	行政書士四季京法務事務所		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2025年までに弊所の二酸化炭素排出量を半減させていきます。	確認中
56	京急建設株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2019年度の主要な工事事務所の電気、ガソリン、軽油、都市ガス、LPG使用によるCO2排出量386t-CO2を247t-CO2(36%)まで削減」していきます。	2024年度の取組結果 (結果) 2019年度 CO2排出量386t-CO2 2024年度 CO2排出量325.6t-CO2 (19年度比60.4t-CO2減少、約15.6%減) (減少理由) 下記活動により、削減を行いました。 一部工事事務所電力を再生可能エネルギー電力(CO2フリー)へ切替え (約4.6t-CO2削減) ・使用電力一部を「トラッキング付き FIT 非化石証書」活用により削減 (約46.8t-CO2削減) ・省エネ活動により軽油、ガソリン使用量を削減 (約9t-CO2削減) (今後施策) 今後も継続して、工事事務所の電力を再生可能エネルギー電力への切替え、カーボンオフセット等を実施していきます。 以上
57	京浜メンテナンス株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会に向けて、2026年までに開削工事より二酸化炭素を放出しない熱硬化や光硬化の工事を提案によりふやし、インフラの再整備・整備を進めたいと思っています。	川崎市より受注の公共工事において、現地調査・事前調査の実施により、環境によりよい更生工法による工事箇所を提案し、変更などを決定し、協議のもと、CO2を減らし、工期の短縮なども行えています。
58	有限会社研精工業所		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2024年に蛍光灯をLEDに交換します。	2024年に蛍光灯からLEDに交換しました。 川崎市環境局脱炭素戦略推進室様と株式会社エニマス様のご協力により「使用電力の見える化・運用改善モデル事業」として電流計測器「エニマス」を設置、改善致しました。 改善内容として、電力が多かったエアコンを省エネタイプのものに新調し、レシーパータンクの増設、エアーコンプレッサーの漏れ(電磁弁)を修理、エアコンの清掃、エアーガンを省エネタイプに変更致しました。 消費電力も下がり、脱炭素化に向けて貢献出来ていると思います。
59	株式会社互幸ワークス		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、①再生可能資源等を材料として製造された資機材の使用率を30%以上とします。②使用年数10年以上のOA機器(複合機)1台を省エネタイプを導入する。③社有車(営業車)5台をハイブリット車など次世代自動車を導入する。以上を目標として脱炭素化に向けた取組をしています。	①業務用ポリ袋について再生可能資源等が材料の資材に変更しました。②2023年5月に取組組を完了しました。③社有車については、低排出ガス認定車両を1台購入した。今後計画的に代替する予定です。
60	栄石油株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO2排出量を30%減少」をしていきます。	確認中
61	佐野デザイン事務所	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、引き続き「2050年」までデザインが貢献できるエコ・サステイナブル活動を推進していきます。 例えば、製造時・使用時・廃棄時における環境負荷の低減、環境効率のスムーズ化、商品の長寿命化、材料のリサイクル、商品のアップサイクル、使い捨ての削減、等エネルギー消費を抑え、二酸化炭素排出を抑えながら、スマートな生産モノづくりと、ライフスタイルを目指します。	エコデザイン活動(デザイン緩衝材など)の取り組みについて 川崎市から『スマートライフスタイル大賞』最優秀賞を受賞いたしました。 以下の記事もご覧頂ければと存じます。 https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000174337.html 「デザインで解決!エコ・サステイナブルに配慮した緩衝材」をテーマとし、最新の紙緩衝材リーヴスティーは、資生堂など幾つかのオンラインショップでパッケージ包材としてお取扱いいだしております。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
62	山九株式会社 首都圏DC支店		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までにCO2排出量▲42%を目指します。(2020年度対比)	・2024年度(令和6年度) 蛍光灯をLEDへ交換(1,835台) ガソリン車をハイブリッド車へ代替(1台) ・2020年度 CO2排出量 1,468,526kg-CO2/年 (CO2排出係数0.441) ・2021年度 CO2排出量 1,470,123kg-CO2/年 (CO2排出係数0.456) ・2022年度 CO2排出量 1,138,183.kg-CO2/年 (CO2排出係数0.390) ・2023年度 CO2排出量 1,188,282kg-CO2/年 (CO2排出係数0.408) ・2024年度 CO2排出量 1,103,264kg-CO2/年 (CO2排出係数0.408(仮)) ・2020年度対比 CO2削減 2024年度 365,262kg-CO2/年 24.9%削減
63	特定非営利活動法人 産業・環境創造イノベーションセンター	○	NPO法人	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに会員企業の温室効果ガス削減2013年度比50%以上削減できるよう、会員間の情報共有、情報発信を積極的に進めています。 NPO法人が入居している会館が再生可能エネルギーを導入するよう働きかけを行っています。 執務室の省エネ化に取り組んでいます。	温室効果ガス削減の取り組みについて、毎月行っている川崎市の政策情報や会員情報に関するメール配信や、年3回行っている会報の発行などを通じて、会員間の情報共有、情報発信を積極的に進めた。 執務室について、不在時のこまめな消灯や、休日時にはコピー機などの電源を切るなど、省エネ化に取り組んだ。
64	三友環境サービス株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに「施設の維持管理にかかるコストや新設に伴う経費について、ライフサイクルコストを検証し二酸化炭素排出抑制事業費交付金を活用した基幹的設備改良事業を実施することで施設の継続化を実現」していきます。	工場内、事務所の内照明を全てLED照明に変更しました。 省電力のLED照明を使うことにより、CO2削減による地球温暖化防止に貢献します。 環境にやさしいLED照明 圧倒的な長寿命・省電力 LED照明は、一般照明と比べて圧倒的な長寿命・省電力を実現します。40形蛍光灯(安定器込み42W)の場合、LED照明化により、およそ71%のCO2排出量の削減が可能となります。 廃棄の処理が容易 蛍光灯などに含まれる、水銀や鉛、カドミウムを使用していないため廃棄処理が容易です。 有害光線を発しない 熱線や紫外線などの有害光線の放出が少なく、人に優しいという特長があります。 CO2削減効果 蛍光灯比で1,096kgのCO2を削減 一般の蛍光灯とLED照明でCO2排出量を比較してみると、40,000時間(24時間・365日点灯で約4年半)あたり1,096kgのCO2削減効果があります。これは、50年生育のスギの木約78本分の吸収量に相当します(1本あたり約14kgの吸収量)。
65	三和クリエーション株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO2排出量を2020年度比30%削減」していきます。	2023年8月に電力供給会社変更にもない非化石証書を取得しております。これにより2024年のCo2排出量は2020年比10.9%(89.1%減)と大きく目標をクリアする結果となっております。この数値は非化石証書によるものが大きいです。が、社内の電力使用効率(売上あたりの電力使用量)も年々良化しており、引き続き社内の取り組みを継続し2030年に向けて目標を達成していきたいと考えております。 売上1万円あたりの電力使用量 2021年度 7.7Kwh 2023年度 7.5Kwh 2024年度 7.3Kwh
66	株式会社シーエスデー		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに 「株式会社シーエスデーは、ソフトウェア・製品の開発から原材料・部品などの調達、製造、?通などすべての過程において、 【地球温暖化防止のための低炭素社会の実現】 【資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現】 【人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生】 に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動」していきます。	①脱炭素への取り組みについて、当社では福島県に太陽光発電所を2つを保有し再生エネルギーの電気を供給している。また、令和6年度から同じく福島県にもう1か所の太陽光発電設備が稼働し、合計3つの太陽光発電所で脱炭素と福島の復興に取り組んでいる。 ②SDGsを体験するイベントにて植物発電キットを使って、脱炭素の環境に優しい未来エネルギーを、学校や川崎環境フェスの会場など様々な場で小学生から大人まで大変多くの方に体験していただいた。植物の美しさと再生可能エネルギー発電から循環型ライフスタイルへの変換を促進するとともに、脱炭素の意識を高める良いきっかけとなった。 ・エコシティかわさきフェス ・かわさきSDGsランド ・高津高校ワークショップ ・Colors,Future!Summit 2024 ・みどりの春庭〜かわさきの恵み〜 ③プリンター印刷枚数-10%を目標にし、約31%削減しました。(2023年度比)
67	CCあさお		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに川崎市「脱炭素行動宣言」の実施に賛同し、川崎市の地球温暖化防止を推進するため、麻生の環境を守り自然と調和した脱炭素活動及び啓蒙活動を行う。また、様々な主体との協働での取組みを推進する。なお、当宣言は2年ごとに見直しを行う。	麻生区内の小学生の夏休みの自由研究支援を、親子参加者の募集をして行ってきた。同時に地球温暖化防止の啓蒙活動を、子供と親の両方の参加者に対して行う企画としてきた。2024年度は7月30日(火)、4年生を対象に「恩廻公園調節池見学会」を行い、児童17名、保護者14名の参加者を得た(全応募者113名)。講習内容は、①調節池の見学、②「地球温暖化を考える」「鶴見川と洪水」である。麻生区役所、地球温暖化防止活動推進センターの協力を依頼した。梅雨前線が東北にあり、特に山形県は最上川の決壊などあり、水害被害をだしており、大雨・洪水の意識が高く、同時に温暖化の影響も感じられることとなった。「温暖化を考える」においては、特に質問もなく「よくわかった」、「だいたいわかった」が17件中15件であった。今後も脱炭素行動に力点を置いて内容の企画、推進を図る。
68	GBtechnology株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2025年」までに「事業用自動車の燃費向上(2%)を実現」していきます。	車両ごとに燃費を管理集計し毎月の結果を掲示(公表)する事で、ドライバーへの省燃費行動(エコドライブ)への意識が高まりました。
69	JFEスチール株式会社東日本製鉄所(京浜地区)	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 ・「2030年」までをトランジション期と考え、低炭素鉄鋼プロセスへの転換を推進します。 ・「2050年」までをイノベーション期と定義し、超革新技術の確立・実装により、カーボンニュートラルの達成を目指します。	取組結果は添付資料をご覧ください。 (下記の弊社ホームページにも掲載しております) https://www.jfe-steel.co.jp/company/pdf/carbon-neutral-strategy_231108_1.pdf
70	株式会社 重田組		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。	社用車及び社内のライト、照明をLEDに順次交換
71	重田造園土木 株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。	社内の照明器具等 修繕に伴いLEDに順次交換
72	社会福祉法人緑成会 特別養護老人ホーム新緑の郷	●	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに以下のことに取り組みます。 ・福祉車両を次世代自動車にします ・節電による電力量の抑制を通じ、CO2排出量を削減します ・省エネエアコンの導入を図ります	・福祉車両はまだ次世代車両の販売が始まっておらず。 ・節電については、猛暑の影響もあり使用電力量が前年比3%増加と残念な結果に終わったが、デマンドピークは145KWから143KWへ下げることができた。引き続きデマンド管理を行い使用量の抑制を図る。 ・省エネエアコン導入前に、エアコンの制御装置による電力量抑制を検討したが、効果がみられず見送った。
73	株式会社ショウエイ	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「業務用過装置の販売」「ろ過省エネシステムの販売」により、社会全体の「水使用量」「熱量」「電気使用量」を削減することで、温室効果ガス排出量を削減」していきます。	当社の年度が10月～翌年9月であるため、令和5年度(2023.10～2024.9)で報告させていただきます。(令和6年度＝2024.10～2025.9は集計中です) 報告内容は、業務用ろ過装置各機種1台当たり年間の削減量×台数の集計。装置は標準品として機種ごとに一定の値を設定して計算しています。 令和5年度(2023.10～2024.9) 水使用削減量: 1,391,713.71 m³ 熱使用削減量: 133,862,300.85 MJ 電気使用削減量: 327098.40 kW
74	昌栄電設株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024 年」までに「環境方針」 環境関連法規、条例等を遵守すると共に、以下方針を全社に周知し環境経営の継続的改善に努めます。 1. 二酸化炭素排出量削減 2. 一般廃棄物排出量の削減 3. 産業廃棄物リサイクル率の向上 4. 水使用量の削減 していきます。	取り組みは概ね実施できた。 更なる結果を残せるよう意識改革を進めていく。 今後も、環境影響を低減するために、社員に対して環境方針の周知を図るとともに、環境教育、人材育成を積極的かつ継続的にを行い、環境マネジメント活動を推進し、より一層の環境配慮型事業を目指します。
75	株式会社伸栄工事		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「本社の使用電力を再生由来の電力に切り替え」していきます。	・再生由来電力、再生可能エネルギー電力対応事業者の調査、絞り込み ・再エネプラン 導入検討 事業者の絞り込み、再エネプランの検討、導入時期の検討 ※社屋新築予定の為、次年度以降の導入検討
76	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	○	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年度までに2013年度を基準として、機構の事務及び事業に伴い直接的に排出される温室効果ガスの総排出量を40%削減することをめざしていきます。	2023年度は基準年度比33.9%削減、2024年度については集計中です。
77	信号器材株式会社	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに、CO2の排出量や無駄な資源の低減を意識した製品開発・製造・施工・販売を行い、「脱炭素社会・循環型社会の実現」を目指します。	LED内照式道路標識および底部固定式ボンドによるCO2排出の低減及び反射材の廃棄材を用いた道路標識キーホルダー販売による、資源の有効活用を引き続き実施し、脱炭素社会・循環型社会に向け邁進中。
78	シンヨー株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに「事務所の省エネリフォーム(窓や壁の断熱リフォーム)」していきます。	自社保有する居住用賃貸物件では、断熱材を採用。屋上には太陽光発電を導入し、入居者19世帯が利用。電気使用による二酸化炭素排出削減に努めています。 本社エアコンの内部清掃を実施。消費電力の効率化により、二酸化炭素排出を抑制。また、エアコン室外機への省エネ装置装着を検討中です。 本社倉庫内の電球LED化に向けた検討を開始。
79	スナイプバレー合同会社	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「地球温暖化/海洋温暖化への意識啓蒙を図るセミナーを毎年開催」していきます。	2030年までに地球温暖化/海洋温暖化への意識啓蒙を図るセミナーを毎年開催。2024年度は、末長小学校、平間小学校の2校で出前授業を実施し、海の環境について伝えたほか、「マチカドこども大学」への登壇や、東京湾大感謝祭のステージイベントへの出演、かわさきFMへの出演などを通して、川崎の海の環境についてお話ししました。
80	生活協同組合ユーコープ	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO2排出量を2013年度比51%削減」していきます。 ①店舗改装時のエコスタ化(店舗の冷凍・冷蔵設備、空調、照明を高効率なものに入れ替え) ②宅配センター新設(冷凍・冷蔵設備の省エネ化、太陽光発電設備の設置、電気自動車) ③再生可能エネルギーを使用した電力会社からの電力調達 ④ユーコープのCO2排出削減の取り組みや到達点などのお知らせを内外に向けてお知らせ	※川崎市内6事業所分以外も含むユーコープ全体の結果を記載しています。 2024年度のCO2排出量は42,350.0tでした。前年比95.5%、目標差+226t(目標比100.5%)と目標を達成できませんでした。 【2024年度の取り組み内容】 ①大型4店舗、中型4店舗、小型1店舗で冷蔵設備を更新。大型4店舗、中型3店舗で空調設備を更新。宅配センター4事業所の照明をLED化 ②宅配センター1事業所を新設した物流センターなどが入居する施設へ移転。冷凍・冷蔵設備を更新、電気自動車4台導入、オンサイトPPAによる太陽光電力を一部に導入。 ③2店舗に自家消費用の太陽光パネルを設置。 ④前年度までのCO2排出量削減状況と2030年度に向けた目標をHPに掲載
81	総合警備保障株式会社 川崎支社		大企業	2050年の脱炭素社会に向けて、「2030年」までに「社用車(乗用車26台)(2輪, 3輪バイク11台)のエコカー化80%」を目指していきます。	確認中
82	ソーラーチーム		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「自然エネルギーの中でも、市民が取り組みやすい太陽光発電、太陽熱利用システムを利用する人が増えるように、普及啓発活動を行います。川崎市地球温暖化対策推進基本計画の2030年CO2半減、2050年までにゼロ目標、川崎市の再エネ推進の施策を伝えて、取り組みを促進」していきます。	・イベントに出展し太陽光発電やソーラークッキングを展示実演し、自然エネルギーへの関心を持っていただいた。(出展イベント7件) ・子ども向け自然エネルギー工作講座を太陽光、太陽熱、風力、バイオマスをテーマに7回実施し、各エネルギーを実感してもらった。 ・小学校向け環境出前講座に4回参加。「地球温暖化と自然エネルギー」の話と体験によって、自分たちの行動や必要なエネルギーの確保について考える機会とした。
83	大和塗装株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて2050年までに「照明の90%以上をLED等の省エネ照明に更新します」	少しづつですが実施しています。 照明のLED化がメインです。 すでに通常使用している照明はLED化していますが、倉庫等普段使用していない場所のLED化の確認を行っています。
84	武松商事株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会実現に向けて2023年度「自社より排出する廃棄物を削減します」	エコアクション21の審査が5/22.23に有りますので更新に向けて全社一丸となって取り組んでいます。
85	株式会社タマック		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・施工棟数の半分以上をZEH住宅とし、15%CO2削減に貢献します。 ・再利用可能な住宅建材の採用で、CO2削減に貢献します。 ・社内ペーパーレス化により、「紙の節約」「ごみ減量」をして、CO2削減に貢献します。 ・リモート管理による車両移動を削減し、10%のCO2削減を目指します。 ・WarmBizによる適切な冷暖房の利用で、5%電気使用量を削減します。	令和6年度、注文住宅部門でZEH住宅60%達成 断熱材を吹付ウレタン工法からグラスウール工法へ約70%変更 現場で排出される段ボールの回収及び再利用 協力業者さんへの現場リモート管理システム参加への徹底 令和6年度4月より、WarmBizを継続中
86	DELE株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「取引先すべての情報機器の廃棄物ゼロを目指す」していきます。	確認中
87	寺尾サッシ工業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ① 製造工場の照明を100% LED化します。 ② 社有車の50%をEV・PHEV化します。 ③ 蓄電池等を活用し、工事現場でのCO2削減を目指します。	①製造工場の照明を100% LED化します。 → 工場内の照明を100%LED化完了。 ②社有車の50%をEV・PHEV化します。 → 2024年に30%達成後、50%にEV・PHEV化に向けて、計画中。 ③蓄電池等を活用し、工事現場でのCO2削減を目指します。 → 電気工具の動力を蓄電池型に随時更新中。
88	株式会社Den		中小企業	2050年の脱炭素社会に向けて、2025年までに都市緑化によるカーボンニュートラル推進に関するアクションを具現化させます。	確認中
89	東亜建設工業株式会社横浜支店		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに ・川崎国際環境技術展に継続して出展し環境技術の普及に努め、建設工事現場のCO2削減に貢献します。 ・社用車2台を次世代自動車にします。 ・再エネ電力の導入を促進します。	・社用車2台をEV自動車に更新済み。 ・事業活動に伴う温室効果ガスの排出削減と併せて低炭素エネルギーやネガティブエミッション技術の導入に取り組んだ結果、CDP2024の気候変動分野において最高評価の「Aリスト」企業に選定された。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
90	東京ガス株式会社 川崎支店	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までにカーボンニュートラルなガス【e-methane、CN L】を普及促進していきます。	①持続可能な社会の実現に向け、カーボンオフセット都市ガスを調達・供給する東京ガスと購入する企業・法人が一丸となり、カーボンオフセット都市ガスの普及拡大とその利用価値向上の実現を目的として、2021年3月に協議会を設立。本アライアンス参画企業・法人は、2050年の「カーボンニュートラル社会の実現」に貢献することを目指し、カーボンオフセット都市ガスを世の中に広く認知させるとともに、投資機関による評価向上や国内各種制度における位置づけの確立に向けて取り組みを推進。 ②2030年に都市ガス需要量1%相当の導入、2030年代にはその10倍以上の導入に向け取り組み実施中。川崎市役所をはじめステークホルダーの皆様を研究施設にご案内し、理解促進の実施。 ③地球温暖化防止啓蒙に係る出前授業を小中学校に実施。また、新しいエネルギー環境教育プログラム「みんなでエネチャレ」を末永小中学校で実施。 ④環境アプリ「Green CarboN Club」に、「ウルトラ省エネブック」「ウチコト（東京ガス暮らし情報メディア）」コンテンツの提供。 ⑤高津区たちばな野菜親子料理教室で「エコ・クッキング」の開催。 ⑥環境保全の取り組みの一環として、ガス・低圧電気における紙の検針票（ご使用量のお知らせ）を、2024年10月末をもって廃止。 ⑦事業所（川崎ビル）において、照明のLED化と休憩時間の消灯実施、および、廊下・トイレ等共用スペースに人感センサーの設置済み。
91	東京電力エナジーパートナー株式会社 南関東本部		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに ●法人企業向け CO2ゼロメニュー販売量 100億kWhを目指します。	2023年度進捗 ●法人企業向け CO2ゼロメニュー販売量 103億kWh（達成率103%）
92	東京電力パワーグリッド株式会社 川崎支社	○	大企業	●東京電力グループでは、「EV100」に参画し、2030年までに業務車両の100%電動化を目指しています ●東京電力パワーグリッド株式会社では、産業廃棄物等のリサイクル率99%以上の達成・維持に取り組みしており、川崎支社では、「かながわプラごみゼロ宣言」を行い、プラごみ・紙ごみ等の区分や注意点をわかりやすく掲示し、ごみの分別を徹底します。	●EV100の取組状況としては、下記の通りです。 ・2023年度末EV化進捗率27%（対象台数：920台/3500台） ・充電課題の解決方法検証 ＊事業所での実運用により充電課題の解決方法を検証 ・EV普及促進に向けた広報活動 ＊再エネ利用によるEVのゼロエミッション化、EV車体ラッピング等 による「カーボンニュートラル化×電化」のPRを実施 ●2019年1月にかながわプラごみゼロ宣言に賛同し、分別の徹底を行ってきました。ゴミの種類を具体的に絵で表示し、みんながわかりやすく分別できるようにしております。また、マイエコ10宣言を掲載しマイバック、マイボトルの持参によるプラごみゼロの意識を高めました。
93	東芝エネルギーシステムズ株式会社 浜川崎工場	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「省エネ活動（節電、教育等による意識啓発等）を行い、CO2削減に貢献します。 ・環境に配慮した高効率機器を導入し、1%／年の電気使用量を削減します。」	2022年度 電気使用量： 3, 229万kWh 2023年度 電気使用量： 3, 235万kWh 2024年度 電気使用量： 3, 062万kWh 省エネ活動（節電、高効率機器導入等）は継続して行っており、2024年度は電気使用量が前年度比5%減となった。 【2024年度 削減施策】 1. 高効率機器の導入を実施（空調機器、LED照明） 2. 細分化した電力使用量を把握するため、2023年度に電力メーターを新規に設置し、電力の見える化を実施。 2024年度より施策効果の刈り取り。
94	東都熱工業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2028年」までに 「・社用車の全てを次世代自動車にします。 ・照明を100%LED化します。」	【社用車の次世代自動車化】 8台中、5台(前年度3台)をハイブリッド車に移行。2028年までに全車ハイブリッド化 【照明の100%LED化】 見積を取得したが施工時期を検討している
95	東洋建設株式会社横浜支店		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO2排出量を45%以上削減(2013年度比)することを目指す」していきます。	令和5年度報告 施工中に発生するCO2排出量を21%削減（2013年度比） 令和6年度報告(中間目標) 施工中に発生するCO2排出量を40.0%削減（2013年度比） (詳細集計中) 取り組み内容(主な例) ・環境配慮型エンジンの換装、A重油から軽油への転換等の実施。 ・GTLやバイオ燃料への転換や作業船から排出されるCO2を回収・固定化する技術の開発。 ・海面最終処分場の保有水等にて工場排ガスや大気から回収したCO2を固定化する技術開発。 ・ブルーカーボンとして炭素の固定が期待できる藻礁ブロックの海域実証実験。 ・低炭素型の環境配慮コンクリートを使用。 ・東京湾内において、アマモ場再生事業に参画。
96	特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘	●	団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「20 年」までに 「2010年からおむつを捨てる時にビニール袋を使わず古新聞で包んできました。12年間で250万枚のビニール袋を使わなかった結果152トンのCO2の削減ができました。この取り組みは今も、これからも続けていきます。 2030年までに・・・263 トン 2050年までに・・・ 530 トン のCO2削減を目指していきます。高齢者が暮らす施設だからこそ出来る昔ながらの知恵と工夫で地球にやさしい生活を取り戻していきたいと思います。」	「令和6年度活動報告」 活動開始より9445日経過し、以下の削減ができました。 ビニール袋・・・323万枚 ペーパー・・・43万枚 電気ボット電力削減・・・2100WW 新たにおむつゴミ削減に着手しました。見直しを行いおむつから布パンツに移行できた人、削減できたおむつは12,240枚。 小さな歩みですが、持続可能な取り組みは続いています。
97	日本電気株式会社	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに 「グローバルNEC全社で、サプライチェーンCO2排出量のネットゼロを目指していきます。」	SBT目標に従って取り組みを実施 ＜2023年度実績＞ Scope 1、2: 22.6万トン ＝ 2020年度比31.0%削減達成 Scope 3: 573.8万トン ＝ 2020年度比6.8%削減達成 ＊2024年4月に、SBTi(The Science Based Targets initiative)からNet-Zero目標の認定を取得しました。2030年度までに2020年度比で「Scope1,2,3」のそれぞれ50%以上削減し、2040年度までに90%以上削減を目指します。 ＜削減施策＞ Scope 1,2: 照明のLED化、原動力設備の更新、空調運転時間の最適化、再生可能エネルギーの活用促進 Scope3カテゴリー1: 調達取引先への削減依頼、省エネルギー改善状況の共有、実地調査 Scope 3カテゴリー11 製品の開発時のアセスメントを通じた、エネルギー効率改善
98	日本海工株式会社東京支店		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・陸上重機を順次更新し排出されるCO2を削減します。 ・作業船での使用燃料を順次重油から軽油に変更し排出されるCO2を削減します。 ・事務所での電力使用量を基準年度比(2021年)から3%の削減をいたします。 ・環境関連イベントやセミナー等に参画し社会的貢献と社員の啓蒙を図ります。	令和6年度(2024年度)の取組み ・令和5年度 新規更新(1台) ・令和6年度 新規更新(1台) ・すべての作業船(3隻)において軽油への変更を達成 ・燃料促進剤の試験的使用 ・停泊中における陸上電源の使用 2024年度:268tのCO2を削減 ・2024年度1%削減 基準年度(2021年度)より合計2%削減達成。 ・東京湾再生官民連携フォーラムにおける生き物生息場づくりPTでの活動 ・東京湾大感謝祭への参加および出展 ・事務所周辺での清掃(月1回)活動 ・ブルーカーボンクレジット購入
99	日本ダスト株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「低CO2川崎ブランドに認定されたNDK白石工場工場と、「川崎CNブランド2024」に認定されたNDK夜光工場での中間処理サービスを通し、排出事業者様より収集した混合廃棄物を選別、破碎し多岐にわたるリサイクル処理先へお渡しすることで炭素の排出量を削減し廃棄物に新しい命を吹き込み環境保全に貢献していきます。	2023年9月にオープンした「NDK夜光工場」にて川崎CNブランド2024を取得致しました。既存のNDK白石工場（旧NDK資源化リサイクル工場）と同様に、産業廃棄物を単純に焼却、埋立てするより、NDK夜光工場で種類ごとに選別、破碎し次のリサイクル先へ搬入する処理フローの方がCo2の排出量が28%低減することが認められました。 NDK夜光工場では東アジア初導入の破碎機を使用し、処理が難しい処理困難物を対象としており、今まで遠方で処理していた処理困難物が川崎市で処理出来る為、運搬に関わるCo2の排出の低減を可能に致しました。 NDK白石工場とNDK夜光工場の2ヵ所で排出事業者様の産業廃棄物におけるCo2の排出量低減に貢献いたしました。 NDKグループにおいて中小企業SBTの認証をいただき、グループ全体でScope1、Scope2について2030年までに2022年度対比で42%削減することを目標設定し実現を目指します。
100	熱研プラント工業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「社有車のHV・PHV化を推進していきます。」 「環境に配慮した事務用品を購入・使用を推進していきます。」 「マイボトル・マイカップ普及に伴い、PETボトルの削減を推進していきます。」	1. 社有車のHEV車化を推進、35台中10台の移行が完了。 2. 書類用コピー用箋は、PEFC認定品使用、社内廃棄文書は溶解処分、完全リサイクル便の活用中。 (複合機での「印刷」は、出力の選択可能な機能を有した機種を導入し不要な印刷、ミスの低減を図る) 社内書類の電子化を推進ファイルサーバーを活用し会議等大型モニターを使用し、ペーパーレス化に取組みを継続中。 3.全社員に「マイボトル」を支給し、ウォーターサーバー（水道直結式）を活用しペットボトル削減等を継続中。
101	ノーティス株式会社		中小企業	環境関連事業(リユース連携事業やアップサイクル事業)を2030年までに事業売上比200%以上に向上させます。	・川崎市立平間小学校、キンコーズジャパン、障害者福祉事業を手掛けるのNPO法人ACT-Rとともに、廃棄端材を用いたアップサイクル製作プロジェクトが「ひらまぎんざサマーフェスタ2024」として継続、さらにプレイブサンダースのイベント内でファングッズ製品として大好評を受ける。 ・当社が運営に携わる幼児向けおもちゃのサブスクリプション「ジニーキンダー」で、廃棄される玩具1,000点程度を福祉施設への寄付および、事業は5周年を迎えて継続。国内で廃棄される幼児玩具の削減に貢献。令和7年度からは東北大学とのベンチャー事業が加わって、大幅リニューアル中。 ・当社の福祉事業所に通う障がい者の仕事創出の一環で行う「リユース連携事業」において、年間数万本のレトロゲーム・リユース品を市場へ再流通することに貢献。取り扱うリユース商品として、トレーディングカードや中古家電等に拡大し、事業継続発展中。
102	株式会社ノクチ基地		中小企業	私たちは2050年の脱炭素社会実現のため、メディアやコンテンツの発信を通して市民の行動変容を後押ししていきます。	確認中
103	株式会社はまりハ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「訪問車をEV、PHEV、エコカーに」していきます。	EV車の購入を2台実施しました。これから継続してEV、PHEV、エコカーを購入していく予定でございます。
104	ハヤシ・アンド・カンパニー株式会社		中小企業	2050年までに脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに弊社対象商品の販売数を2倍ににして参ります。	弊社対象商品の販売数について、2025年1月～4月時点で112%となっており(2024年1～4月と比較)ラインナップの拡大と販売販路の拡大が要因と捉えております。取り組み内容及び宣言内容(2050年までに2倍)へ着実に近づつつあります。
105	早野聖地公園里山ボランティア		団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、炭素の固定化に貢献していきます。 また、CO2削減(大気中への拡散)を継続的に実施致します。	炭素の固定化を実施 2024年度＝約963Kgを固定化 箱数×重量×含有率 ＝ 206箱×5.5Kg×85% 消費用として 虹ヶ丘小学校 2024年6月 5.5Kg 14電分＝写真添付 等々力緑地 緑化フェア用＝アクテブ・ガーデンの無臭ハウスに炭を27.5Kg分を設置提供、フェア終了後に市役所本庁舎のトイレに設置を検討中です。 6月24日(火)復元棟1～3階と25階展望階のトイレ12ヶ所(男・女・バリアフリートイレ)に設置(炭を入れ稼ごとパネル)完了させて頂きました なお、7/18(金)付でタウンニュース多摩・麻生区版(NO1090号)に掲載されました
106	日崎工業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、弊社は「2030年」までにScope1およびScope2におけるCO2排出量、実質0を目指していきます。	ENIMAS(ポータブル通信電流計/株式会社エニマス)による、電力計測の実施 無駄な電力消費の削減対策を目的として、レーザー加工機2台(ENSISとC1AJ)の本体および周辺機器(チラー・コンプレッサー・集塵機・発振器)さらにLED照明、エアコン、換気扇などについて個別に1～2か月間ずつ電力計測を実施。計測結果から、コンプレッサーが他の設備に比べてより多くの電力を消費していることが明らかとなり、設備ごとの使用状況を把握することができた。 今後は計測データをグラフ化し社員の電力消費に対する認識を深める取り組みを進めるとともに、scope1の目標達成に向けた具体的な対策案を検討していく。
107	ビッグバン株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「照明のLED化や老朽化した高圧受変電設備の更新工事などを通じて省エネで快適な生活に貢献」していきます。	この一年間、住宅・企業・公共施設等の照明のLEDへのリニューアル工事を大小合わせて約30案件、同じく高圧受変電設備の更新及び関連工事事も約15案件の施工を実施いたしました。2027年末には蛍光灯の生産が終了します。企業、物件の管理会社、公共施設での需要が増加した場合に備えていきたいと考えております。また新たに空調工事(管工事)の取扱いを進めました。空調関連設備の更新によるコスト削減と環境負荷低減の実現に貢献していきます。
108	有限会社 廣田商店		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて 弊社は産業廃棄物収集運搬業という直接環境に携わる業務を行っているため、資源循環型社会の構築の一端を担っていきます。	弊社の今年度の実績は、事業ゴミの分別・減量に取り組みました。車両の運転では、社員一同でエコドライブの実施に努めました。回収先から排出される段ボールは資源物として回収先に分別してもらい、資源物として回収に成功しました。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
109	株式会社 福田商店		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現にむけて2050年内継続的に火育木育活動を地元市内、県内の子どもたちに訪問授業活動を行う 市内の里山に行き里山体験活動のプロジェクトでスタッフ活動を行う 火育木育イベントのプロジェクトを行い開催する 市内の里山森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 県内の森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 2050年以降につきましても継続的に行う	○川崎緑化フェア各コア会場にて森林保全の大切をお知らせする。地元の間伐材で子どもたち向けにワークショップの開催 ○ 県内川崎市内の保育園にて火育木育授業を開催 ○県内の私立中学高等学校にて地元の里山にて森林保全活動と炭焼き体験を年間を通じて開催 ○県内の財団法人、川崎市のボランティア各団体様の協賛、支援と森林保全活動を行う ○川崎市内の企業様と協力関係を築ちやさいのひろば、やさしい木の広場川崎市7区にて開催する ○弊社主催関係団体様主催による木育イベントの開催
110	福吉塗装株式会社		中小企業	2050年脱炭素社会の実現に向けて、2024年度末までに化石燃料使用量の削減(基準実績の3%削減)していきます。	目標設定達成のため、エコドライブ、アイドリングストップ、相乗り等により昨年同様1%の削減を達成しました。引き続き宣言達成の為に、社内全体の取り組みを再度周知徹底し継続いたします。
111	富士通株式会社	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、当社グループの事業活動における温室効果ガス排出量を2030年度に、バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を2040年度にネットゼロとする目標を掲げ、SBTiより2023年6月にネットゼロ認定を取得しました。 再生可能エネルギーについても、2030年度に事業活動における使用電力を100%再生可能エネルギーとすることを目指します。 また、サステナビリティ・トランスフォーメーションをリードする企業として、お客様・社会の課題解決にテクノロジーで貢献し、提供価値の拡大・向上を図っていきます。そしてサステナブルな未来をお客様やパートナーとともに実現していきます。	・温室効果ガス排出量 SBTiより「ネットゼロ認定」を取得(2023年6月) ・再生可能エネルギー 当社全域で47.5%達成(2024年度)
112	株式会社富士通ゼネラル		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「温室効果ガス排出量（スコープ1,2）を実質ゼロ」に していきます。	1. 温室効果ガス排出量(スコープ1, 2)実績 2. 温室効果ガス排出量の第三者保証取得 温室効果ガス排出量データの信頼性を確保するため、2023年度の単体および、連結子会社の温室効果ガス排出量について、KPMGあずさサステナビリティ株式会社による第三者検証を受け、保証書を取得しました。 https://www.fujitsu-general.com/jp/environment/data/assurance.html
113	株式会社 プリマジェスト		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「・企業のペーパーレス化支援と社内ペーパーレス化を併せて推し進め、「紙の節約」「ごみ減量」を図り、CO2削減へ貢献 ・CO2削減に貢献するサステナブルなサービスの提供 ・環境関連イベント、地域イベント(植樹祭、市民150万本植樹、等)やセミナー等に 参画することによる社会的貢献と社員啓蒙 」 をしています。	令和6年度分の取組みについて、以下の通りご報告いたします。 1. 顧客企業のDX化を支援する中、業務ペーパーレス化を多数支援してまいりました。企業の顧客が記入して提出する帳票だけでなく、企業の職員がWordやExcel等を使った紙ベースの資料による業務処理についても、スマホやタブレットのカメラで撮影した画像により業務処理(自動分類・AI-OCR処理等)ができるペーパーレス化システムを開発して提供しました。(自治体や大手保険会社へ敎社 等)これにより紙の印刷や手作業によるエネルギー消費の節約とデジタル化によるCO2排出量の削減に貢献しました。 2. CO2削減に貢献するサステナブルな環境を実現する具体的な取り組みとして、鉄鋼と扱う工事現場等に紙シールにて散在し続けるメタルタグ(鋼材に張られている紙シールの商品タグ等)を、弊社が開発した新製品IOH(インタラクティブオーバーヘッドスキャナ)により、一括してDX化+業務ペーパーレス化する業務フローを実現支援、人にやさしいSDGsソリューションを提供しています。 3. かわさき市ゴールドパートナーとして開催主旨に賛同し、川崎市植樹祭(市民150万本植樹運動)に複数社員が参加しました。今回の継続参加も含め、その他各種イベント・セミナーの社内啓蒙活動を推し進め、全社を挙げて積極的な参画を進めてまいります。
114	プレス工業株式会社 川崎工場		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに 「高効率設備導入、生産工程見直し、生産性向上、生産工法の改善、 業務効率化等の諸施策を推進し 2019年度比 21%削減 1,044t-CO2削減します。」 していきます。	“やめる” “直す” “とめる” “下げる” “拾う” “変える”の視点で改善活動推進 令和6年度主な取組事例 1)厚生事務棟太陽光パネル設置による事務棟使用電力削減 2)サイドフォークリフト ディーゼル仕様からバッテリー仕様へ更新(電動化) 3)フォークリフト削減によるエネルギー使用量削減 4)プレスモーターインバータ化による電力削減 5)工場事務所空調設定温度管理による使用電力低減(冷房:28° 暖房:20°)
115	ペトリファインテクノロジー株式会社	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2025年までに「川崎市内で集められるペットボトルを完全循環することに貢献」していきます。	現在、引き続き取り組み活動中です。
116	株式会社マイルストーンジャパン		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、太陽光発電所の建設に関する機器の提供を通し、今までに建設できない困難な地盤の場所に有機的に効果を出す製品の開発を行い、事業者や需要者に対して価値を見出してまいります。また自社消費型で再生可能エネルギーを取り入れ2030年までにオール電化にできるように取り組みます。そして弊社工場においては、全てを蓄電された電気で賄えるような移動式のトレーラーハウスを事務所に変更し、安全に配慮した取り組みを同時に進めて参ります。	従業員に周知徹底を行い、消費電力を抑える事ができました また、車のアイドリングをストップすることで排気ガスを抑える事もできました
117	マイルド産業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「廃プラスチック類のマテリアルリサイクル率を5倍(※弊社2022年度取扱基準)とし、適切なリサイクルを促進」していきます。	[定期業務内取り扱い廃プラ類] 2022年度:廃プラスチック類(マテリアルリサイクル率):19%(217t) 2023年度:廃プラスチック類(マテリアルリサイクル率):20%(210t) 2024年度:廃プラスチック類(マテリアルリサイクル率):21%(263t) 本年度の定期業務で取り扱った廃プラスチック類(約1,241t)の内、約62%(775t)が中間処理施設へと搬入され、その内34%(263t)、総量比21%がマテリアルリサイクルされました。 また昨年度から継続して全国での仕物のリサイクルを実施し、約20tの廃プラスチック類のマテリアルリサイクルを実施致しました。 本年度からの取り組みとして、物流過程で利用されるプラスチック製コーナードボードやプラスチック製パレットをマテリアルリサイクルするスキームをお客様へご提案させて頂き、15.3tのプラスチックを有価品としてマテリアルリサイクルフローで処理する事が出来ています。 弊社では引き続きマテリアルリサイクル率向上に向けてリサイクルスキームの構築、提案、運用を続けて参ります。
118	丸井・マルイファミリー溝口		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年3月期」までに 「CO2排出削減量100万t以上」を実現していきます。	・省エネルギー設備の導入や節電をはじめ、働き方改革による残業時間の削減やグリーンビルディングの推進、環境負荷低減に取り組むテナントさまの誘致、お取引先さまやお客さまへの省エネルギーの働きかけなどにより、省エネルギーの推進に取り組んでいます。 再生可能エネルギー化の推進自社発電の保有による再生エネルギー共有開始しています。 2024年3月期は、グループで年間 35万トン削減いたしました。 ※2025年3月期での年間削減量は、2025年5月頃発表予定です。 (取り組み一例) ■ サステナブルクーポンの配布 環境に配慮した商品を購入されたお客様に対して、感謝の気持ちを込めて「サステナブルクーポン(200円分)」を配布。対象は、サステナブルな取り組みをされているテナント様で販売されている商品です。お買い物を通じて、楽しみながら環境貢献ができる仕組みとなっています。 ■ 「みんな電力」再エネのご案内 再エネ電力サービス「みんな電力」のご案内イベントを実施し、電力の選び方ひとつで環境に大きく貢献できることを多くの方に知っていただいています。当社では全館を挙げてさまざまなサステナブルな取り組みを進めています
119	株式会社丸井電設		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「会社建物をNearly ZEB化」していきます。	2025年現在では、当初目標であった社屋の移転の目的が立っておりません。 NearlyZEBへ向けた取り組みのうち、『省エネ』については一定の実効性をもって取り組んでいます。 しかしながら『創エネ』については2035年を目標とする観点から、新社屋での取り組みを意識し未だに実行できておりません。 速やかな社屋移転と『創エネ』に取り組むことを今後も継続的な目標とします。
120	みぞのくち新都市株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに、「ノクティCO2排出量を2013年比で9,000トン削減」していきます。	ノクティのCO2排出量の削減に向けて、再生可能エネルギー発電による電力を使用するとともに、ゴミの排出量削減とリサイクルに取り組んだ結果、2024年度のCO2排出量は、2013年度比、9,649トン削減することができました。今後におきましても、2013年度比で9,000トン削減が維持できるよう取り組んでいます。 また、ノクティでの取り組みをワークショップや店内掲示で紹介し、脱炭素社会の実現に向けた啓発活動にも取り組みました。
121	三井埠頭株式会社		中小企業	2033年までに構内照明設備の90%をLED化していきます。 2033年までに業務車の90%を次世代自動車にしていきます。	確認中
122	株式会社ミントヨ		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに二酸化炭素排出量(Scope1+2)を「2018年度を基準に50%削減」していきます。	2030年までに二酸化炭素排出量(Scope1+2)を「2018年度を基準に50%削減」を目標に活動しております。 2030年までに各年段階的な目標を掲げており、2024年度は2018年度比で33.0%削減を目標として削減活動をしました。 実績としましては2024年度までに2018年度比で41%削減を実現しております。 引き続き、「2030年」に向けてCO2削減に向けて取り組みを実施していきます。 2018年度:37,785 t-CO2 2024年度:22,190 t-CO2 41%削減(目標達成) 【2024年度の具体的な施策】 PPAによる太陽光発電システムの導入 CO2フリー電力への切り替え 配管のエアー漏洩調査(修繕) 建物の遮光/遮熱化 照明器具のLED化 工程内の改善活動 等
123	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルファイナンスを推進していきます。	令和5年度は約8,000億円、令和6年度は約5,000億円のESG債の引受に関与いたしました。 当社は、持続可能な社会の実現に貢献するために、お客さま・次世代・社会・社員へのESGエンゲージメント活動を引き続き推進してまいります。
124	特定非営利活動法人みどりなぐらし	●	NPO法人	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、川崎市に暮らす子育て世代の方と「脱炭素した豊かな暮らし」をめざして、様々な企業や団体と連携し、広報活動や啓蒙活動をします。	川崎市内の子育て層に向けた各イベント等でSDGsの啓発活動を行いました。 以下、参加したイベントです。 優しい木と緑のひろば、やさしいきのひろば(市内7区で開催)にて、「森のおはなし」の紙芝居を使って森林保全の大切さを伝えた 高津市民館やさしいきのひろばで小田原産の木材を使ったネームプレートづくり 末長小学校 SDGsワークショップ 東京コールドチェーン サステナブルボックス販売啓蒙 東京コールドチェーン アンジュ梶ヶ谷店にて「地域食堂(Cocoron食堂)」開催 新城サカバにて、地元野菜を使用した料理提供(フードマイレージ、地産地消) SDGsはくぐみ時間 年に3回出展(キットバスで手形や足形でアート)
125	株式会社村瀬造園		中小企業	私たちは、2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに 1. 社員の意識啓蒙を行い、CO2排出量を50%削減します。 2. 照明を50%LED化します。 3. 営業車1台を次世代自動車にします。 4. 環境に配慮した機器・機材を導入し、電気使用量を50%削減します。	・照明を50%LED化準備中です。 ・エコドライブの実地 ・リサイクルの徹底
126	学校法人明治大学	○	学校	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2033年」までに 「1.環境に配慮した機器を導入 2.節電要請に伴う校内放送 3.クールビズ・ウォームビズの実施 4.リサイクルの徹底」 していきます。	1.,第二校舎A館の一部にて、空調機器の更新を実施した。 中央校舎および第二校舎A館の一部にて、LED照明器具への更新を実施した。 2.国からの節電要請があった場合は、それに従い適切に実施している。 3.毎年5/1～10/31の期間、クールビズを実施している。 4.古紙、段ボール、空き缶について、リサイクルを実施している。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文	報告書
127	メビウスパッケージング(株)川崎工場		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「メビウスパッケージング全事業所(エコアクションプラン2030)の取り組み 1、循環型社会の実現に貢献する ・再生樹脂・植物由来樹脂の使用率 30%以上 ・リサイクル可能な製品仕様 100% 2、低炭素社会の実現に貢献する ・事業活動(Scope1・2)での生産重量あたりCO2排出量50%削減※ ・サプライチェーン(Scope3)での販売重量あたりCO2排出量30%削減※(※ 2019年比)していきます。	・川崎臨海部水素ネットワーク協議会(参加中) ・多分野にわたる水素利用の拡大(純水素型燃料電池の導入等) 結果:費用対効果との兼ね合い見て検討中。 ・EV車の導入(Electric Vehicle電気自動車)社有車、自家用車、運送トラック 結果:社有車は、EV車導入して運用中。(1台) ・廃棄材の削減、再利用(リサイクル材、バイオ材の使用、水素製造(昭和電工殿)における廃材の提供) 結果:リサイクル材・メカ材などの非化石材を使用し生産活動中。 (昨年実績比 0.54tonCO2削減) ・省エネ活動の取り組み(日々の省エネ巡回、省エネに纏わる設備更新等) 結果:省エネモーターへの更新など電力削減実施(417Mwh削減)
128	ヤマト運輸株式会社 川崎主管支店	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「電力消費に伴うCO2排出の段階的削減に向けてEV車両を高津区へ集中的に導入」していきます。	2024年6月 ・川崎州市制100周年事業にて市民の皆様へ荷物の受け取り、利便性と脱炭素への貢献を実感していただくことを目的とし6月から8月末までにオープン型宅配ロッカー「PUDOステーション」で弊社の荷物を受け取った方から抽選でプレゼントが当たるキャンペーンを川崎市・富士通株式会社・Packcity Japan株式会社との協同にて実施。キャンペーン結果として、「約3万件のキャンペーンサイトアクセス、約2,000件の宅配ロッカー利用、一定数の行動変容につながった。 2024年8月 ・川崎市の「脱炭素アクションみぞのくち」の推進の一環で川崎市脱炭素ライフスタイル行動変容PJ発足 2024年9月 ・川崎市グリーンボンド対談実施(福田市長×川崎信用金庫堤会長×ヤマト運輸川崎主管鈴木主管支店長) 2024年10月 ・川崎市高津区エリア集配車両にEV車を全社25台配車する。 ・高津千年営業所の蓄電施設・EMSを導入 ・川崎未来エナジー株式会社との契約締結 ・10月16日、官民連携100%地産地消再エネ電力営業所として(高津千年営業所)稼働スタートをプレリリース 2024年12月 ・環境省環境大臣賞受賞(川崎市・川崎未来エナジー株式会社・ヤマト運輸株式会社共同受賞) 2025年2月 ・川崎市脱炭素取り組みタウンニュース掲載 2025年3月 ・NIKEI脱炭素アワード賞受賞
129	株式会社横浜銀行	○	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までにコンコルディア・フィナンシャルグループにおいて、以下のことを実現していきます。 「・サステナブルファイナンス実行額を2兆円 うち、グリーンファイナンス1兆円 ・カーボンニュートラル」	・サステナブルファイナンス実績(2019年度～2023年度) サステナブルファイナンス実行額:2兆6,760億円 うち、環境分野ファイナンス実行額:8,250億円。 →進捗状況を踏まえて、KPIを、「サステナブルファイナンス実行額を4兆円 うち、環境分野ファイナンス2兆円」に上方修正済。 ・カーボンニュートラル実績(2013年度→2023年度) GHG排出量の削減率:85.4%。 →2024年度までの削減目標を前倒しで達成しました。 ・今後GHG排出量ネットゼロに向けた今後のロードマップとして、scope3算定の高度化、算定結果の開示を進めてまいります。
130	Learning & Culture Innovation株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「 ・二酸化炭素の排出量を削減します ・環境への貢献に関する社員の啓蒙を計ります」していきます。	・業務の一部ICT化による紙の使用量削減取り組み中(2023年度比20%削減) ・社員会議での無駄の削減の伝達(年1回)
131	株式会社ラボラボ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに事務のペーパーレス化や移動の際は公共交通機関を主に使用していきます。	確認中
132	株式会社リットアップ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、プラスチック製品の使用を2025年までに50%削減していきます。	・ホテルアメニティの客室配置→ロビー設置に変更チェックイン時にプラスチック削減のため必要な分だけお取りいただくようお客様にお伝えしている。【継続】 ・アメニティのブラシをプラスチック製から二酸化炭素が出ない素材に変更済み ・客室内にラミネートして置いていたインフォメーション(変更があるたびに交換)をQRコードに変更。
133	株式会社リベラルコーポレーション		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「高津区の全企業が脱炭素アクションみぞのくち推進会議会員になるよう行動する事」をしていきます。	確認中
134	りんかい日産建設株式会社		大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「日本が目指す2050年GHG実質排出ゼロの実現に向けて取り組み、バックキャストの視点でプロジェクト「RN THE FUTURE PROJECT」を策定。2030年及び2050年をマイルストーンとする豊かな未来と確かな価値を創造」していきます。	・宣言を弊社の新中期経営計画(2025-2027)においても明言し、ホームページに掲載しています。 弊社中期経営計画掲載ページ(中期経営計画ページ17): https://www.rncc.co.jp/ir/ ・弊社サステナビリティ取り組みのページを開設しており、これを2024年8月に大幅更新しました。 弊社サステナビリティページ https://sus.rncc.co.jp/ ・環境ビジョンを策定し、弊社サステナビリティページに掲載しました。 弊社環境ビジョン掲載ページ: https://sus.rncc.co.jp/environment/index1.html ・本社および一部の支店ビルで電力再エネ100%化を実施しています。 ・アイドリングストップなどの省エネ活動を継続しています。 ・弊社請負の工事施工にあたりグリーン鋼材を使用しました。 ・これまでのSCOPE1、2に加え、SCOPE3を定量化し、開示しました。
135	株式会社レノナック川崎事業所	●	大企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「 CO2排出量30%削減(2013年比) 」していきます。	1. プラスチック・ケミカル・リサイクル(KPR)における化石燃料ゼロ化に向けた取り組み ・廃プラスチック原料増加による都市ガス使用量削減 ・破砕成型工程にて運転効率化による電力原単位向上 2. 旧式冷凍機更新による、消費エネルギー削減
136	株式会社ロードカワサキ		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2045年までに ・工事作業車全てをAT車に変更し、CO2の削減に貢献します。 ・工事に用いる合材は、CO2削減のものを使用します。 ・社内の照明を全てLED化します。 ・社員の意識啓発を行い、CO2排出量を5%削減します。	・工事作業車全てをAT車に変更し、CO2の削減に貢献します。 →宣言して以降まだ新しい作業車は購入しておりません。 ・工事に用いる合材は、CO2削減のものを使用しています。 →使用中です。 ・社内の照明を全てLED化します。 →令和5年度は、事務所の照明灯は全てLEDにしました。 令和6年度は会社の車庫(倉庫)の照明を半分LEDに変更しました。 ・社員の意識啓発を行い、CO2排出量を5%削減します。 →継続中
137	和光産業株式会社		中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに「ワックス清掃においてワックスグリーンクリーニング(3R資源循環型清掃/低CO2川崎ブランド認定)を拡大して、溶剤を含む剥離剤の使用量を2022年度比で70%削減、剥離廃液(産業廃棄物)を減らしてCO2削減への取り組みを」していきます。	1)社内:23年度剥離剤使用量180が21缶で作業面積9,450㎡に対して、24年度180が14缶使用で作業面積6,300㎡、削減した作業面積は、3,150㎡。CO2換算*での削減量は、759kg-CO2/年、33.3%削減でした。22年度比(2,937kg-CO2)では、1,411kg-CO2/年削減して、48.0%削減。 *計算式は、環境省「平成26年度カーボンオフセット認証取得支援事業」に採択された試算方式に基づく。各エネルギーのCO2排出削減量は、経済産業省CO2排出係数(原単位)を使用。 2)JR東日本グループとの取り組み/(一社)床ワックスをリサイクルする会として:24年度取り組み事業所(路線)は、茅ヶ崎派出所/JR相模線、弁天橋派出所/JR鶴見線、中原事業所/JR南武線の計3事業所(路線)。 ※24年度のCO2削減量については、合計で10,578.5kg-CO2/年、97.5%の削減でした。 (水13.9kg-CO2/年、電気816.0kg、廃プラスチック5,899.0kg、廃油3,849.6kg) 25年度は、JR武蔵野線、中央線の2事業所(路線)が加わる計画です。
138	株式会社 渡辺土木	●	中小企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「炭素排出量を50%削減」していきます。	確認中